

R5年度天皇誕生日祝賀記念レセプション  
太田大使スピーチ

本日は天皇誕生日祝賀レセプションへご臨席いただき、誠にありがとうございます。明日、天皇陛下は64歳の誕生日を迎えられます。日本では、年明け早々、能登半島での地震、その翌日には、羽田空港において航空機同士が衝突する事故が発生し、多くの国民が深い悲しみに暮れました。また、ポルトガル政府、当地外交団、そして一般市民の皆様よりも、多くの見舞の言葉や暖かいメッセージを頂きました。多くの方が日本に心を寄せてくださったことに、改めて御礼申し上げます。

世界は今、歴史の転換点にあると、日々実感しています。

法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序は、今なお続くロシアのウクライナ侵略により、深刻な挑戦にさらされています。このような力による一方的な現状変更を許してはならないという認識の下、日本は、G7を始め、国際社会と連携しつつ、精力的にこの問題に取り組み、ウクライナへの継続的な支援・復興支援を行っています。

中東情勢は引き続き予断を許しません。ハマス等によるテロ攻撃を改めて断固非難すると同時に、ガザ地区の人道状況を深刻に懸念し、全ての当事者に対して、国際人道法を含む国際法の遵守、民間人の安全確保を強く求めます。

我が国はこれまで「自由で開かれたインド太平洋(FOIP)」の実現に向けた取り組みを進めてきました。協調と分断が複雑に絡み合う今日、「自由」「開放性」「多様性」「包摂性」「法の支配」を理念とするFOIPは、「Our FOIP」として国際社会で支持・賛同を得ています。この理念の下、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の推進、「誰一人取り残さない」「人間の尊厳」が守られる世界の実現、また、気候変動やエネルギー問題といった地球規模課題への取組において、共に海洋国家であり、自由、民主主義、法の支配、基本的人権等の基本的価値を共有する重要なパートナーであるポルトガルと、引き続き密に連携していければと思います。

経済面では、ポルトガルは欧州・米州・アフリカ大陸にアクセスが良く、地政学的にも安定したロケーションを活かしたビジネスを展開し、近年では、再生可能エネルギーのトップランナーの一国として、また、IT分野での成長でも知られています。こうした分野においては、持続可能な経済成長を目指す中で、日本もポルトガルと共に歩める点が多くあると思っています。二国間の関係を一層強化していくためには、民間レベルでの経済関係の深化も重要だと考えています。たとえ地理的に遠くとも、ポルトガルにはおよそ90社の日本企業が進出していますし、逆ベクトルもまた然りで、ポルトガル資本の対日直接投資の増大を通じて、両国間の双方向の経済活動の活性化が強まればと望みます。

来年2025年には、大阪・関西万博が開催されます。「海洋」をテーマとするポルト

ガルパビリオンが、日本を代表する建築家・隈研吾のデザインで、万博の中心地を飾る予定です。このパビリオンが、経済関係をはじめ、両国の友好親善関係のさらなる発展につながることを祈念しています。

日本とポルトガルの交流は、481年前、種子島にポルトガル商人が漂着した1543年に始まりました。これは、日本とヨーロッパとの出会いでもあります。今年、2024年は天正遣欧使節のポルトガル到着440周年です。天正遣欧使節とは、当時の新聞や彼らを描いた肖像画が後ろのモニターに写されていますが、1582年、日本のキリシタン大名がローマ教皇への使者として派遣した4人の少年達で、日本からヨーロッパへの初の公式使節といえます。彼らは長崎を出発し、マカオ、ゴアを経由して、1584年8月リスボンに上陸しました。サン・ロケ教会、ジェロニモス修道院、シントラ、エボラなどへの訪問を経てローマ教皇の拝謁を果たし、再びリスボンに戻って日本に帰国したと伝えられ、両国の交流の歴史を象徴する出来事として、日本ではとてもよく知られています。

今後490周年、500周年と続く関係の中で、日本・ポルトガル両国の友好親善関係をさらに発展させ、両国の人々の往来が増え、政治・経済・文化面での協力関係が深化していくように努めて参りたいと思います。皆様の御支援・御協力をいただければ幸いです。

本日は、両国国歌を歌ってくださった歌手のお二人のデュエット、太鼓グループの演奏がございます。上のサロンとこの会場には日本企業有志と長崎県の出展もございます。ポルトガルで活躍する日本人アーティストの演奏とともに、日本の料理と酒をお楽しみ下さい。このレセプション開催に協力して頂いている方々に、感謝の意を申し上げます。

ご静聴ありがとうございました。

(了)